

聴覚障害学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1.5単位

《履修上の留意事項》 この演習はオンデマンド講義（5回）以外の残り18回を2グループに分け、担当2名の教員が同時開講します。

事前にオンデマンドによる教材視聴後、対面による演習を実施します。また、Google Classroomを利用し、オンライン上からレポート課題の提示・提出を行いますので、パソコンとwi-fi環境を準備して下さい。演習によっては検査機器が限られているため、待ち時間が発生する場合があります。その場合、自身の順番が来るまで提示された課題に取り組むこと。過去に提示された課題に取り組まず、他教科の課題を行う学生が散見された。そのような行為が確認された場合、該当学生のこの科目の受講を以降一切認めず失格処分とするので注意すること。

《担当者名》 前田秀彦 maehide@hoku-iryo-u.ac.jp 葛西聡子

【概要】

成人聴覚障害ならびに小児聴覚障害に関する基本的検査、評価法および聴覚補償法について習得する。まとめとして、PBL (Problem based learning)を通して、症例に対する合理的な聴力評価と補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定を学修する。

【学修目標】

「一般目標」

1. 聴覚障害の診断・治療に必要な検査法、評価法について理解する。
2. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償機器について理解し説明できる。
3. 小児聴覚障害の(リ)ハビリテーション(補聴と聴能言語指導)について概説できる。

「行動目標」

1. 純音聴力検査を実施できる。
2. 乳幼児聴力検査を実施できる。
3. 他覚的聴力検査を実施できる。
4. 聴力検査の留意点を具体的に説明できる。
5. 複数の聴覚検査法の関連性を理解し、検査所見を述べるができる。
6. 人工内耳のマッピングを通して、人工内耳の概要を理解する。
7. 補聴器の特性測定ができ、必要事項について説明できる。
8. 複数の聴覚検査法の結果をもとに評価報告書を作成し、補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	純音聴力検査1 (オンデマンド1)	純音聴力検査手順と注意事項をビデオ教材で確認する。	前田秀彦 葛西聡子
2) 3	オリエンテーション 純音聴力検査2,3	気導・骨導聴力検査の実施 オージオグラムの作成 マスキング負荷量の確認	前田秀彦 葛西聡子
4	他覚的聴力検査法 (ABR)1 (オンデマンド2)	電極の貼付、計測ソフトウェアの操作手順、解析方法をビデオ教材で確認する。	前田秀彦 葛西聡子
5) 6	他覚的聴力検査法 (ABR)2,3	ABRによる聴力評価を行う。	前田秀彦 葛西聡子
7	乳幼児聴力検査 (BOA、COR、ピープ ショウ、遊戯聴力検査) (オンデマンド3)	各乳幼児聴力検査法の概要と手順についてビデオ教材で確認する。	前田秀彦 葛西聡子
8) 9	乳幼児聴力検査1、2 (BOA、COR)	BOA、CORの実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
10) 11	乳幼児聴力検査3、4 (ピープショウ、遊戯聴力検査)	ピープショウ、遊戯聴力検査の実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
12	人工内耳マッピング1	人工内耳のマッピング方法を動画教材で確認する。	前田秀彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	(オンデマンド4)		葛西聡子
13) 14	人工内耳マッピング2,3	人工内耳のマッピング作成を行う。	前田秀彦 葛西聡子
15	補聴器特性測定1 (オンデマンド5)	補聴器特性装置の使用方法、JIS規格に基づく補聴器特性測定法をビデオ教材で確認する。	前田秀彦 葛西聡子
16) 17	補聴器特性測定2,3	補聴器特性装置を使用しJIS規格に基づく補聴器特性測定を行う。	前田秀彦 葛西聡子
18) 19	PBL (Problem based learning) 1,2	症例データを確認する。グループごとに評価報告書を作成し、補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定を考える。	前田秀彦 葛西聡子
20) 21	PBL (Problem based learning) 3,4	グループごとに評価報告書を作成し、補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定を考える。	前田秀彦 葛西聡子
22) 23	PBL (Problem based learning) 5,6	作成した評価報告書、補聴・(リ)ハビリテーション方針について、各グループごとにパワーポイントを使用して発表を行う。	前田秀彦 葛西聡子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート課題80%、PBL症例発表20%

【教科書】

中村公枝 他 編 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」 医学書院 2021年(デジタル教科書)
日本聴覚医学会 編 「聴覚検査の実際 改訂4版」 南山堂 2017年(デジタル教科書)

【参考書】

青木直史 著 「ゼロからはじめる音響学」 講談社 2014
小寺一興 著 「補聴器フィッティングの考え方」 診断と治療社 2010年
小川郁 編集 「よくわかる聴覚障害 難聴と耳鳴りのすべて」 永井書店 2010年

【備考】

演習内容によって使用する教室が変わります。

グループによる演習が中心です。個人的な勝手な行動は慎むこと。

各回のレポート課題はGoogle Classroomから提出してもらいます。パソコン、wi-fi環境を整えておくこと。

【学修の準備】

- ・「聴覚障害学」、「聴覚障害学」、「聴覚障害学演習」で学習した検査方法および留意点を事前に復習しておくこと。
- ・オンデマンド教材を視聴し、その検査手順を演習までに予習しておくこと。
- ・演習課題の内容、専門用語の意味等を理解して演習に臨むこと。(予習80分)
- ・2年前期で履修した「音響学」を復習すること。分からない部分は、オフィスアワーを利用し積極的に担当教員に確認すること。参考書などを利用して理解しておくこと。(復習80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3)言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

前田秀彦(臨床検査技師、言語聴覚士)

葛西聡子(言語聴覚士)

(2026年度・リハビリテーション科学部)

【実務経験を活かした教育内容】

豊富な臨床経験に基づいた、実践的な演習を行います。